

■ 耕作放棄地の現状

市の面積：41,684ha
 農地面積：10,198ha
 農家戸数：6,141戸
 認定農業者：645名

耕作放棄地

面積：60.4ha
 耕作放棄地率：0.59%

※耕作放棄地率＝耕作放棄地面積／農地面積

■ 解消へ向けての経緯

本市では、平成20年度より、耕作放棄地の発生防止と再生利用を目的とした「耕作放棄地対策」に取り組み、これまで32.5haの解消が確認されたところである。しかしながら、畑地については、水田利用に比べ高い労働力が必要であることや基盤整備が未実施であること等から低利用化及び荒廃化が問題となっている。そこで狭隘・不整形な畑地においても高収益が期待できる施設園芸を推進することとし、施設園芸農家や国等を含めた施設等導入補助事業要望者に対して、本事業の周知を行った結果、いちごの規模拡大意向のある認定農業者が確保され、再生利用交付金を活用した再生作業と施設整備を行ったところである。

■ 交付金活用の概要

- 地区名：宇都宮市新里町地区
- 対象面積：23a（土壌改良及び施設等補完整備：15a）
- 事業実施期間：平成25年度
- 取組のきっかけ：施設等導入補助事業要望者へ利用意向を確認した結果、本取組の支援対象となったため
- 事業の内容：再生作業（草刈・抜根・耕起及び整地・土壌改良）
施設等補完整備（パイプハウス15a）
営農定着（いちご作付）



再生前



再生後

■ 取り組みの成果

- ◆ 施設園芸農家の耕作放棄地解消に関する気運が高まっている。
- ◆ 耕作放棄地の中長期的活用が期待できる、施設園芸農家に対して推進を図る。

■ 耕作放棄地の現状

市の面積：49,062ha
 農地面積：5,950ha
 農家戸数：3,830戸
 認定農業者：434名

耕作放棄地

面積：65ha
 筆数：642筆
 耕作放棄地率：1.1%

※耕作放棄地率＝耕作放棄地面積／農地面積

■ 解消へ向けての経緯

農業委員会では農地利用状況調査を実施しているが、更に踏み込んで放棄地を解消することで農地の借り手が借りやすいように解消事業を実施した。実施団体として平成25年6月に農業委員全員参加による「鹿沼市農地再生プロジェクト“絆”」を設立。

今回、事業実施したのは市内で一番大きな面積の放棄地であり、JR日光線沿いで景観上の問題もあった。

解消後の農地の受け手として「そば」栽培の担い手も確保できたから実施した。

■ 交付金活用の概要

- 地区名：北犬飼地区
- 対象面積：151a
- 事業実施期間：平成25年7月～8月
- 農地の状況：15年位前から耕作放棄地となり隣地が竹林のため竹の侵食や
 雑木が密生していた。
- 事業の内容：除草、伐採、抜根、耕起、整地、土壌改良
- 栽培作物：そば及び裏作として景観作物用の菜の花



再生前



再生中



再生後(そば発芽)



(そば収穫)

■ 取り組みの成果

- ◆ 耕作放棄地の解消実施事例として、現地に看板を設置したり新聞・テレビ報道の活用など広く市民にPRできた。
- ◆ 事業実施後、小規模面積ではあるが会員による解消作業が2か所約1ha実施するなど発展継続されている。
- ◆ 今後も農地受け手の要望に応じて解消作業に努めていく。

■ 耕作放棄地の現状

市の面積：16,721ha
 農地面積：7,175ha
 農家戸数：4,355戸
 認定農業者：560名

耕作放棄地

面積：34.7ha
 筆数：319筆
 耕作放棄地率：0.48%

※耕作放棄地率＝耕作放棄地面積／農地面積

■ 解消へ向けての経緯

真岡市八木岡地区には、数十年來のシノ竹が繁茂する荒廃地(約45a)を中心に2.1haほどの耕作放棄地が広がっていた。農業委員の熱意に動かされ、地元農家の協力が得られた。株式会社クボタの社会貢献活動である「クボタe-project」の理念とも合致したため互いに協力して再生作業に取り組むこととなった。

■ 交付金活用の概要

- 事業実施期間：平成24年11月～平成25年2月
- 対象面積：142a
- 取組のきっかけ：地元農業委員の働きかけによって、地域住民の再生への取組機運が上昇したこと。企業の社会貢献活動による協力の見通しが立ったこと。
- 事業の内容：最も荒廃が進んだ農地のシノ竹を「クボタe-project」の活動により除去し、その土地を含めた周辺の放棄地を地元の農家が引き継ぎ、再生作業にあたった。
- 現在の活用状況：約3haのソバ畑として活用(荒廃していなかった周辺農地と一体)。



再生前



再生後

■ 取り組みの成果

- ◆ 真岡鉄道の沿線であることや、付近に国道が通ることから多くの人の目に触れる圃場であり、荒廃状況が解消されたことの波及効果は大きく、市内の耕作放棄地対策への取組姿勢に効果が出ていると思われる。
- ◆ この圃場から採れたソバ粉が市内のお祭りに提供されたり、地元の敬老会にてふるまわれるなど、地域活性化の一つの要因として機能している。
- ◆ 鳥獣被害(特にムクドリなどの糞害)が報告されていたが、問題の解消が期待される。

集落内の話し合いを進め 大規模な樹園地を一気に解消

■ 耕作放棄地の現状

市の面積：12,546ha
農地面積：5,871ha
農家戸数：1,726戸
認定農業者：235名

耕作放棄地

面積：76.2ha
筆数：415筆
耕作放棄地率：1.3%

※耕作放棄地率＝耕作放棄地面積／農地面積

■ 解消へ向けての経緯

耕作放棄地対策については、農業再生協議会、市農政課、農業委員会、農協地区センター等が中心となって解消に取り組んでいるが、畑や樹園地が荒廃している状況にある。畑や樹園地は、一度荒廃してしまうと作物転換も難しくなり担い手等への集積もままならない状況が続いていた。

耕作放棄地が多い地域住民から耕作放棄地再生利用交付金の活用提案があり、集落で話し合いを進めながら本事業を活用した再生作業に着手した。

■ 交付金活用の概要

- 事業実施期間：平成25年5月～12月
- 対象面積：92a（樹園地）
- 取組のきっかけ：地域的に耕作放棄地が多い集落からの提案であり、優先的に解消を図る必要があった。
- 事業の内容：耕作放棄地の再生作業と試験栽培（そば）展示
- 現在の活用状況：次年度以降も地元農家によるそばの栽培を継続していく。



再生前



再生後

■ 取り組みの成果

- ◆ 耕作放棄地解消に向けた農地所有者や地元農業者の意識統一が図られた。
- ◆ 新規作物（そば）導入による所得機会の増加やそば打ち体験による地域活動の活性化が図られている。
- ◆ 病害虫や鳥獣被害の軽減が期待できる。